

令和3年度 ACTR

分類 番号	A17	取組 名称	北山杉と京銘竹の標準化(規格化) —伝統工芸技術継承のための科学によるトップブランド化—
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 古田 裕三
研究担当者：			
【京都府立大学】：古田裕三【外部分担者】三重大学：瀧上佑樹氏【外部協力団体】京都市都市計画局都市景観部風致保全課：渡邊大郎氏、京都府農林水産部林務課、京都市産業観光局農林振興室林業振興課、京都木材協同組合：谷口吉昭氏・浅岡秀哉氏、京都府産木材利用拡大協議会：堀井誠司氏、NPO 法人京都発・竹・流域環境ネット：吉田博次氏、(株)アドプランツコーポレーション：増永滋生氏、他			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都市都市計画局都市景観部風致保全課、京都府農林水産部林務課、京都市産業観光局農林振興室林業振興課、京都木材協同組合、京都市域産材供給協会、京都府森林組合連合会、京都府木材組合連合会、京都府産木材利用拡大協議会、NPO 法人京都発・竹・流域環境ネット、他			
【研究活動の要約】			
本研究は3年計画の1年目である。北山杉に代表される京都の木材と、京銘竹に代表される京都の竹を、工芸技術等を継承しつつ科学的な知見も加えることによって現代のニーズに見合った製品をトップブランド化するためのシステム作りについて様々な調査・検討を行った。その結果、木材、竹材のいずれについても、京都府下の産地による分類よりも、製品や製品ジャンル毎に標準化（規格化）を行うニーズが高いことが明らかとなるとともに、一部標準化を行うべき項目（例えば、デザイン性、科学的優位性、環境的優位性、など）についての抽出も行った。2年目は木材と竹材のそれぞれについて、標準化のための準備委員会を作り、製品や製品ジャンルごとに標準化を行う項目を選出・検討・決定しつつ、認証システムなどについても検討し、3年目以降の試行・運用に向けた準備を行う予定である。			
【研究活動の成果】			
木材と竹材のそれぞれについて、標準化（規格化）により、京都独自のトップブランド化を行うことを目的として、様々な調査・検討を行った。得られた主要な成果は以下の通りであった。			
【木材】			
参考を示す図のような「京都の木」ブランド化規格を作成した。すなわち、今後、標準化システムを作成し、木製品の意匠性、機能性、先進性などを差別化することによってブランド化するものである。			
【竹材】			
参考を示す図のような「京都らしさ」を利用する竹の利用方法を調査した。その結果、今後、標準化すべき製品群を最終選別し、製品ごとにブランド化する方向性となった。			
【研究成果の還元】			
R3.11.7 オンライン形式 関係者等約 40 名「けいはんな天然資源利用促進懇談会」 (テーマ：京都南山城地域の「放置竹林」の再生を目指して)			
R4.2.20 オンライン形式 関係者等約 50 名「けいはんな天然資源利用促進懇談会」 (テーマ：カーボンニュートラル・モデル地域の形成を！)			
R4.2.18 京都木材会館（ハイブリッド形式） 関係者等約 15 名「京都木材協同組合特別委員会」			
R4.3.24 京都木材会館（ハイブリッド形式） 関係者等約 10 名「京都木材協同組合特別委員会」			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 生物材料物性学研究室 教授 古田 裕三 Tel: 075-703-5637 E-mail: furuta@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)

① 「京都の木」ブランド化規格の概要

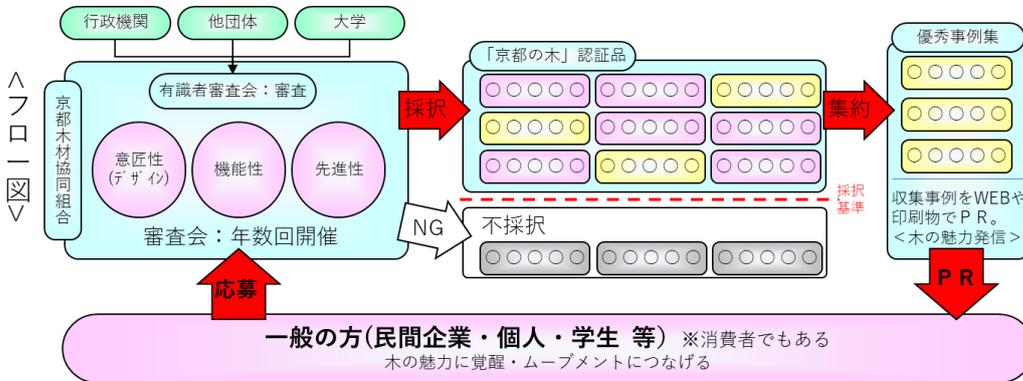
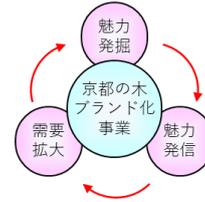
「京都の木」ブランド化企画

「京都の木」ブランド化の概要

木材そのものをブランド化するのではなく、**木材を利活用した完成物単位** (建築物や家具・什器等) で、**その意匠性や機能性などを評価・認証する**仕組み。ブランド化の対象物は、広く一般の方からの応募制とし、京都木材協同組合が中心となって審査を行い、**一定レベル以上の基準を満たしたものを「京都の木」認証品として認定**する。
 また、認証品の中から優秀事例を集約し、積極的にPRし、「木の魅力」の伝播を図る。
 事業は1年単位をサイクルとし、単年度事業ではなく、**制度として継続・定着**を図る。※認証品の木材は京都産木材とする

<POINT>

- ①完成物単位でブランド化することにより、**一般の方にわかりやすい(＝伝わりやすい)**
- ②一般ユーザーの京都ブランドに求める「京都らしさ」、応募側の「**京都ブランド**」公認のメリットに応える仕組み
- ③応募対象：一般の方 (民間企業・個人、学生等々)
→**新たな魅力の発掘** (業界の中にもない感性で木の魅力を再発見)
- ④**木の魅力発掘～木の魅力発信のシステム化**



② 「京都らしさ」を利用する竹の利用方法等

「京都らしさ」を代表する生物資源

「京都らしさ」との関わり

祭事・伝統行事	食	工業品・染織	産物	造園
祇園祭、白河祭、嘗鼓、花笠踊り、大代如來、山笠祭典等、嵯峨の松明、鞍馬竹打ち会、応仁屋松上げ、多富宮の可成松上げ、小堀の上げ松、嵯峨の山崎、大原上野町のいこないおろし等	花菱がらこ、焼栗餅等	京扇子、京扇子、京うちわ、京刺子、京すだれ、京竹工芸品、漆器、京ざる、京藪簾、京あしなわ、京草、京和傘、京盆、京八、漆器、犬、漆器、犬、漆器、犬	伝統産物、京町家等	造園資材等

代表的な生物資源の利用と調達状況

竹伐り会

<現状>
・30年以上前は、寺の周りで自生していたものを使っていたが、現在では近隣から購入している。

調達: やや狭い 産地: 不明
→ 入手経路: 市内産 (近隣地域) を利用

京扇子

<現状>
・かつてはマダケを使っていたが、現在採れないため国内産のモウソウチクを中心に使っている。

調達: やや狭い 産地: 不明
→ 入手経路: 国内産、海外産を利用

産園資材

<現状>
・京都ではマダケは採れないため、八木町、亀岡市等で採取している。モウソウチクは市内(西山)、国内外のものを利用している。

調達: やや狭い 産地: 不明
→ 入手経路: 市内産を含め、国内産を利用

マダケ、モウソウチク <ハビタツ> 竹林環境

分布(資源)量の推移

約30年後

昭和50年代 平成20年代

減少理由と課題の整理

気象害	結竹などは台風などの気象害の影響を受けやすい。
獣害	イノシシ等獣害被害の増加
担い手(管理)不足	竹林の維持管理不足から結竹、倒竹が多く発生し、新しい筍の発生が少ない
汚染	マダケは都市化の影響から分布面積が減少している。
都市化	

モウソウチク林資源に係る畜文化への影響(タケノコ収穫量等)の推移

①環境 (t) ②タケノコ収穫面積 (ha)

「京都らしさ」としての位置づけ

指標: マダケ、モウソウチク、ハビタツ: 竹林

①様々な構成要素 (特に祭事・伝統行事、建築、造園) との関わりが深く、京都の伝統を継承していくには必要な生物資源。
 ②竹は生物多様性としての価値とともに、マダケ、モウソウチクともに「京都らしさ」を代表する生物資源
 ③モウソウチク林に生育するタケノコ等の生物資源も含め、竹林というハビタツで健全再生を図る。
 竹林管理ができる範囲で実施していくことが必要。